

# シナリオプランニングの 理論と実習

月曜2限 @国際学術総合研究棟 演習室A  
基本的に対面で行います

# 「政策環境・事業環境検討手法としての」

- 官庁の政策形成過程で、シナリオを描く  
例：『2030年長期エネルギー需給展望』  
『2050年世界のモビリティシナリオ』
- 主要企業は、気候変動のリスク・機会を認識し経営戦略に織り込むこと、その際にシナリオ分析を行うことを求められる
- 企業が自発的に、自社の経営戦略策定の際にシナリオ分析を行う場合も、多々ある

⇒「シナリオ分析」に遭遇する可能性は高い！！

# シナリオプランニングとは何か

- 将来の展開が不確実な未来を語るための「手法」
- 関心のあるテーマについて、未来のタイミングを考慮して、説得力のあるストーリーを作成
- 単一の将来見通しにたって戦略を作るのは危険
- 複数の将来見通しをもつことで、見通しが外れるリスクを低減
- 採るべき対策を、事前に考えられる

## 長期の政策/事業環境想定の難しさ

- 過去のトレンドに、考え方が拘束される
- 計量モデルでは、過去と不連続なトレンドを描き難い

そんな中でも重大な判断を迫られる



- Think un-thinkable
- 専門家と言われる人も活用しつつチームでブレスト
- 直面し得る「複数の未来」を描き、備える  
(**Scenarios**)

# Political correctnessにとらわれる

- 規範理論が支配的な現代
- 自らの命運を左右する重大な決定に際しても、**社会的に「正しい」とされる規範的将来目標**を与件とて考えがち
- **現実の世の中の動きに翻弄され**、便利な言い訳=想定外
- 規範論を取っ払い、どのような将来展開があり得るのか、思考実験をすることは重要

この授業では、

- シナリオプランニングにおける「未来」の考え方を理解
  - シナリオ分析の手順と、各工程の意味について理解
  - 実際に、チーム作業でシナリオを作成
- ※ 履修者全員が「生データ」であり「専門家」
- ※ 手法を理解することに重点